

# 新潟県

# 公民館月報

昭和56年3月号

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市川端町2-9・果林楽会館内】

【電話・新潟(0252)24-6073】【振替新潟4094】

発行人 会長 石井耕一  
編集人 事務局長 本田 清

【定価1部 70円 年共 年価 840円】



## 館の農豪

二月の下旬というのに、時ならぬ寒波でまたすっかり雪化粧に戻る。ここ蒲原平野の阿賀野川西岸にある「豪農の館」もすっかりと雪に包まれ静まり返っている。

全国から訪れる人々は年間十数万人、観光バス等でごった返す季節もあるのだが、今日の館は三、四人のグループの人が静かに觀賞しているだけで四〇〇平米に近いこの建物の中はまわりの雪に吸い込まれてゆきそうな感じで静寂そのもの、こんな館もまた趣きがある。伊藤家は江戸時代中期よりこの地にあり昭和期には新潟県有数の大地主であったが戦後その遺構をそのまま昭和二十一年に現在の地方文化博物館として生れ変わった。この春の淡雪も間もなく消えて集落にも春耕の機械のエンジンの響きとともに生産への活動が始まる。と同時に館を訪れる人々も日ごとに多くなる。陽光をいっぱい受け、全ての生物の活動が始まる季節だ。絵・文 阿部兵一

(横越村公民館小杉分館長)

# くらしのなかに定着

## 教科書に載った公民館

### 子どもたちも注視するその活動

公民館のことが小学校四年生の社会科の教科書に載っている。公民館が社会的地位を確保した証明ともいえることで、まことに喜ばしいことである。

教科書に載ったおかげで、子どもたちが近くの公民館を見学し、教科書の公民館の様子とくらべてみるという。活動盛んな公民館なら結構なことだが、そうでなかったとすると少し問題をばらんでくる。

われわれ自身も、いよいよ勉強しなくてはなるまい。

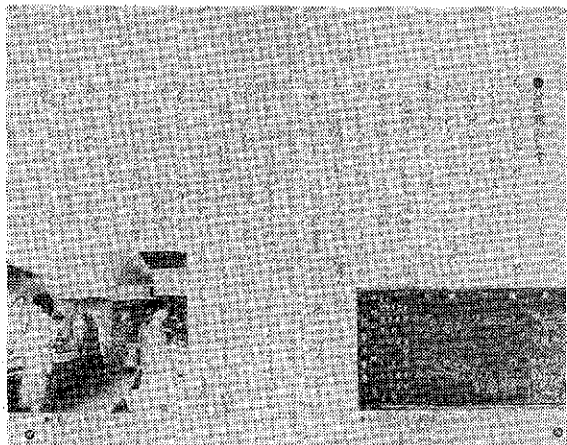
この辺の解説と課題について、県社会教育主事、青木昭平氏に執筆していただいた。

文部省では、昭和五十二年七月によって計画的な事業が行われて二十三日に小学校学習指導要領の「あること」とともに、「地域の開成計と学校教育法施行規則の一部を改正した先人の働き」を取り直しを行ったが、この改訂による「上げ、人々が生活を維持するばかりでなく、精神的にも物質的にも育進の基盤は、昭和五十五年度から実施されている。

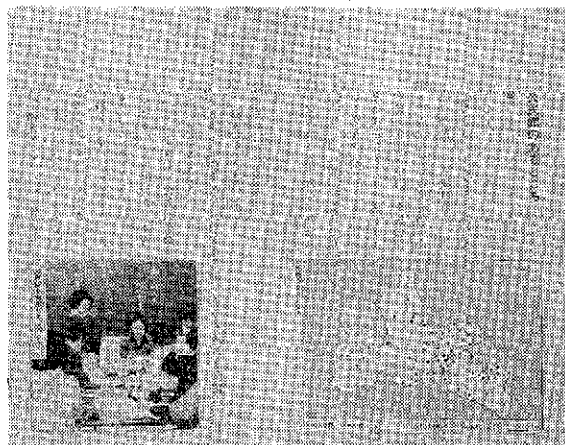
学習指導要領の改訂に伴って、各教科、各学年の指導の目標や学習の内容も、これまでの教科の基本的な性格を受け継いでおり、さ都道府県などの行政の持つ役割や、一層の充実を期して改善が働きを理解させることをわらっている。そして、内容(2)では、「地域にある公民館、公園などの公共施設」が完成するまでの経過をとり、そこには、人々の生活をより豊かなものに改善するた

小学校の社会科—住みよいくらし・中教出版による

このたびの改訂で、社会科第四学年の学習として、内容(2)では、「人々の生活の向上を図るため、市(町、村)や県(報道府)



小学社会 教育出版株式会社



新しい社会 東京書籍株式会社





# 新潟市坂井輪地区公民館

## 新生公民館繁盛記

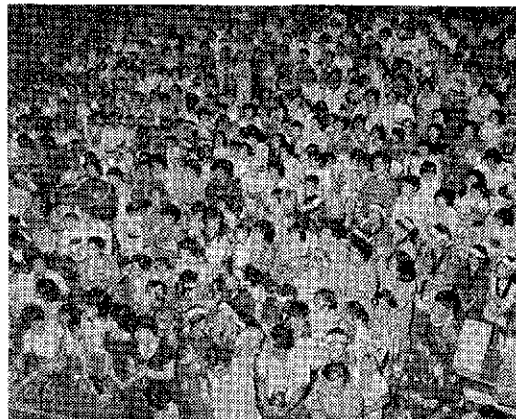
(4)



### 利用者数七万五千人

### 安定した自主グループ活動

公民館は花ざかり、一月号からこれまでにすでに八館の新築公民館が登場。これからもどしどしご紹介いたします。



ラブ坂井輪・盆踊りフェスティバル

いま新潟市では二所、保健センター、土木事務所、千平方メートルクラス、三、五階が公民館である。二五〇〇の地区公民館が急じ、人収容のホール、音楽・美術工作で建設されている。空・調理室・各講座室と図書室を当坂井輪地区公民館併設しているなどまさに地区総々の長年の要望がセンターの機能を備えている。昭和五十四年四月に開館した。一、二、三、帯帯数一万二千、人口七万人、新住民混在の顕著な地域で、隣部分が市行政の連絡あり、他の地区に比して公民館的

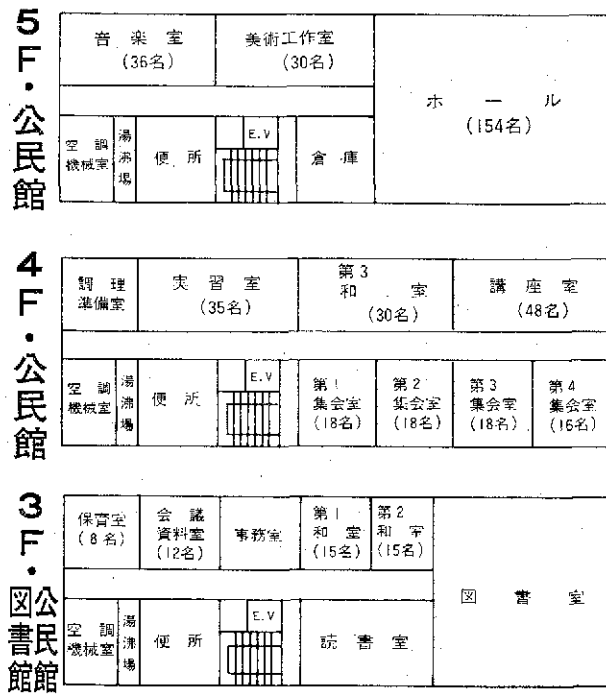
動に対し最も要望の強い地でもあり、開館してからの館の利用はめざましく、例えば五十四年度の利用者数は約七万五千人、館外活動を入れたと十万人を軽く突破する参

加者があり、旧木造時代に比べて五倍の数である。自主活動グループも多く誕生し、各々が定着した活動を見せている。反面、新旧混在の地域のためか地域運営、活動面での意識に欠けるものも少なくない。五十五年八月、ふるさとを見直す催し「ラブ坂井輪盆踊りフェスティバル」を二日に亘り行った。参加者が共に一万五千人にもおよんだ。予期しないほどの多くの人が参り、地域住民の求めているものが何の一端を知り得たことはこの催しでの大きな収穫であった。

これからもますます多岐にわたる学習要望が広まってくるなか、地域活動の拠点となる地区公民館のあり方を模索しながら地域の発展、地域文化向上に努めていきたい。

新潟市坂井輪地区公民館 長・浅田 靖

### 平面図





絶賛好評

現場の声を反映して改定!

# 公民館総合補償制度

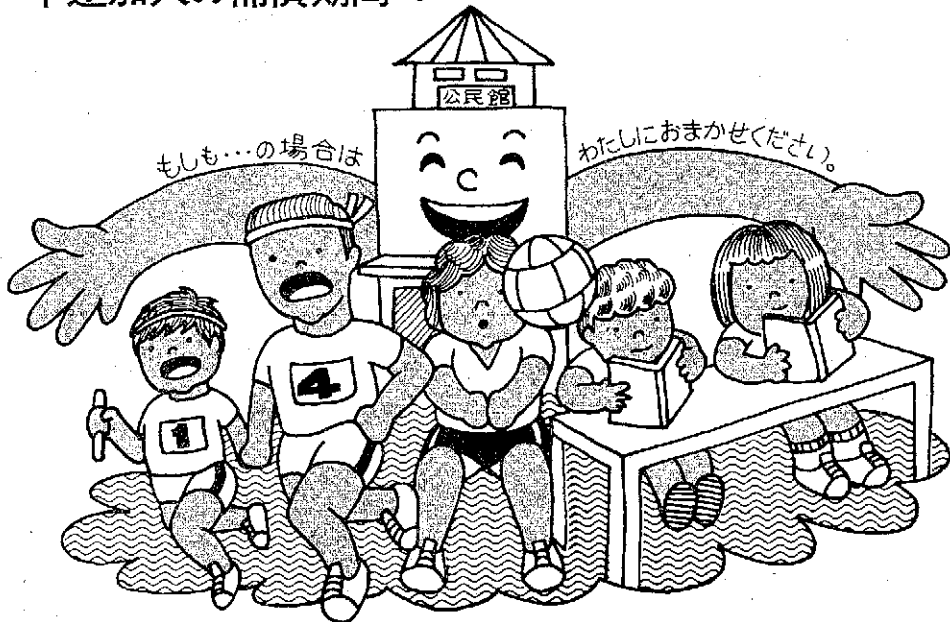
市町村立公民館の実態に応じ、加入の種類は自由です。

- A型【行事傷害】+【賠償責任】+【職員傷害】
- B型【行事傷害】+【賠償責任】
- C型【行事傷害】 + 【職員傷害】
- D型【行事傷害】

上記4種類から自由にお選びください。

予算がついた時点で即加入ができます。

中途加入の補償期間 ● 毎月1日から5月1日まで(掛金は月割計算)



〒951 新潟市東中通1番町86

安田火災海上保険新潟支店

電話 0252-25-1811番

加入申込み手続きや補償制度の内容などについてお問い合わせの場合は左記へ。

## 公民館とは何か

栢崎市では昭和六十年度を目標年次とする「栢崎市長期発展計画」により、昭和五十年以来、地区公民館の施設整備が着実に進められ、今春の大洲地区公民館の竣工により目標の二十四地区公民館の半数、十二地区公民館の施設が整備される。

施設の整備が進むにつれて公民館の利用数も著実に増加し、先程まとまった昭和五十五年一年間(一、十二月間)の全市公民館の利用数は、一万二千六百九十四件、三千三百八十八百十六人を記録するにいたった。

一日平均三四・八件、九百二十八人、市民一人あたり平均年四回の利用となり、施設がまだ整備されなかつた五十年と比較してみると、件数において二・一倍、利用者数では二・四倍となる。

先年、海外社会教育施設視察団に参加した時の視察団の共同名刺には、公民館はローマ字でKOMINKANと書かれてあり、訪問先の西独青少年通訳事務局で「日本の公民館とはどういう施設なのか?」と質問され、わかりやすく説明するのに大変苦労したことがあり、かつては「公民館施設論」と「公民館機能

論」が筆を執られたこともあったが、施設の整備とともに著実に増加してゆく公民館の利用数を見つめながら、「公民館活動とは、施設を基盤とする社会教育活動なのだ。」と、あらためて感じて

いる昨今である。

○ 全公連をはじめ全国公民館関係者の熱心な努力で、公民館施設に対する国庫補助金の急増を待つばかりに

めざましいものがあり、昭和五十六年度の公民館建設国庫補助金は、きびしい財政事情にもかかわらず一億三千万三千九百円、総額百二十四億九千三百万円(四百三億分)となり、年々全国各地に立派な公民館が建設されることとなり、その施設の管理、経営をして活動のあり方があらためて問い正されている。

## 公民館番頭日記

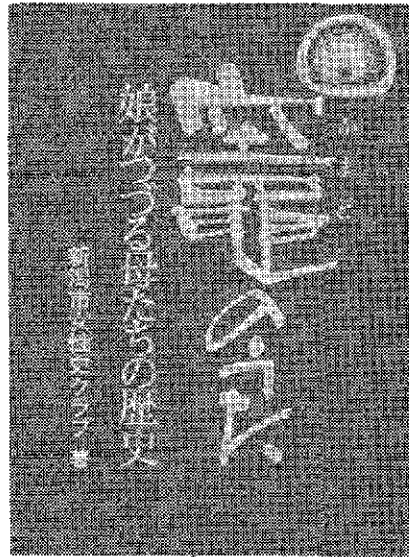
日頃、公民館の現場で番頭役として施設の管理、経営をはじめ、公民館活動の企画、実施に直接あたる立場から、具体的な問題点等について率直な所感をまづえながら紹介をし、「公民館とは何か、そのあるべき姿などについてみなさんどうも考えてみたいと思ふ。」

徳間 助夫  
(栢崎中央公民館 事務長)

# 公民館の文芸誌

公民館を軸として、地域に根をおろした文芸活動がさかんにおこなわれています。

編集部に届けられた公民館関係文芸誌のなかから、今月は新潟市中央公民館女性史講座の受講生がつくった「籠のうた」から要約した一編を紹介し



## この本の申し込み先

新潟市小針 674-1-4  
新潟市女性史クラブ  
倉元正子 電話 (0252) 67-5474  
B6判 320ページ 上製本  
1冊 1,100円 (〒250円)

## わたしのあしあと

戦中・戦後の激動と混乱を生きぬいた11人は、戦時下の初恋の人との別離、婚家から吹雪の子連れ脱出行、父や夫の転勤につれて浮き草のように移り住んだ人生——などを赤裸々につづり、しかもなお、ねばり強く明るい「雪国の現代女性」の生きざまを浮き彫りにしている。

柏崎市中央公民館・婦人大学セミナー  
女性史コース刊

- ・ B6判 328ページ
- ・ 1冊 1,200円 (〒250円)

・ 申し込み先  
〒945 柏崎市諏訪町6-6

柏崎市中央公民館・事業係  
電話 02572-2-2637

## 母の断章〈要約〉

渡辺明子

見附市の農村部、山深い部落を離れた。昭和三年、東京女子医専に、母は今もお馴染みとして働入學。片道、時間余をかけて、父を縛っている。明治四十四年、長親とその妻の家が新潟河田町まの長生橋のたもと町にて出で通學しつづけた五年間、母は生牛、七十歳。

大正十二年、東東一田を襲った。世の底に不気味な動きを大地震の余波は、越後、長岡まで、秘めた時代を、ただ前のみを見てにも達し、祖父の株屋を倒産させ、第一回医師国家試験に合格、女学生だった母のしあわせを格、自信満々を問出た。母も奪い去ってしまった。家庭崩壊、祖父は、病弱な祖母を残し、妻は祖母の妹、産科、頑まれない女性達の苦しみに、男児があった。

「おっかさんをしあわせに」という思いが、信濃川の確かな流れのこの母を女子医専の門をくぐり、山新編村(見附市)に住むこ

ととなった。娘のもとに身を寄せた祖母は、ここで静かな晩生を送る。

長岡市亦に勤めながら、続けざまに六人の子を出産した母が、多産をかつごと、祖母はいつも、「大くなれば、みんな味方になるのだよ」と励ましてくれた。

小さの子供達をおいて勤務する母への村人の口は、それだてに厳しかったのに、若い母は、堂守り、勝手頭、世話人等、経験を積んで賢い年寄達と対等にわたりあおうとしたのである。だだ、あつとしたりする荒れは、大寺を舞台にして、とにかくも彼女は主役となった。

昭和十九年、内科小児科医を卒業、開業を最も楽しみにしている。開業、開業を最も楽しみにしている。開業、開業を最も楽しみにしている。開業、開業を最も楽しみにしている。

娘の天に赤紙がこないように、親を字への呼びかけも、母は福音様と

言機にお言葉を踏みながら。母の仕事は、男の医者が診し

ていた戦中にひまがつき、戦後も息をつく間もない程忙しかった。吹雪の真夜中、一里も三里も歩いて往診し、寒にたどり着く頃は夜が明けをめる。小さの子供のおむつを換え、用便をさせ、うとうとすると、朝早い農家の患者に起こされる。足のあたたまる間はなかりお供をして、具合が良くなった知らせが届く。母のうれしさをいっはいいはいいこみながら。

正面から見ると福音堂は以前と少しも変わらず、大きな木立を背負い、千羽鶴や女の髪の毛の束を撮り取って、どこまでも静かである。裏にまわると、刺りたれ、赤くたれた山肌が痛々しい。

これは、女入禁制の山だった

と

## 公民館関係法令・解説

公民館長・公民館主事・公民館職員・公民館運営審議会委員・社会教育主事・社会教育委員・教育委員会関係者・公民館を利用する人・社会教育関係団体関係者等の必携の書として広く活用されています。

### ◎内容

教育基本法・社会教育法・社会教育法施行令・公民館の設置及び運営に関する基準規程・通達「公民館基準の取扱いについて」解説つき。

A5判34ページ 1部 250円 (送料実費)

### ◎お申し込み先

〒951 新潟市川端町2-9 県林業会館内  
県公民館連合会事務局 電話 0252 (24) 6073

